

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成30年度第4回）議事録

日 時：平成30年8月3日（金）10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、北川雄光理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

I. 前回（平成30年度第3回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を児玉理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

- ・なし

III. 報告事項

1. 日本発の放射性治療薬医師主導治験開始
資料に沿って報告された。

2. AIで早期胃がん領域の高精度検出成功
資料に沿って報告された。

3. がん診療連携拠点病院などの診療状況調査
資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・QI解析結果において実施率の低いグループについては、今後、実施率の低い要因について精査していきたい。

4. 都道府県がん登録データベースシステムの不具合
資料に沿って報告された。

5. 厚生労働科学研究費補助金等の不適正経理
資料に沿って報告された。

6. 厚生労働省「NCの今後の在り方検討会」の状況

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・特定疾患でのNC間の集約化に関しては、小児がんについて成育医療研究センターと当センターが中央機関、希少がんについてがん研究センターが中央機関となっており、中央機関が中心になり集約化し連携していく。
- ・希少がんについて正しい診断をするため治療提供の前段階から連携していきたい。

7. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・がんゲノム医療の保険適用に際しては医療経済上どのような試算をしているのか。
- ・がんゲノム医療の医療経済上の検討については、費用負担の面だけでなくQOLの向上によるプラス面を含めた試算も必要と考えており、C-CATに集まるデータによって、それを科学的に検討していきたい。
- ・評価部会では、監事として、センター各部門の職員が、C-CATや全国がん登録など国家プロジェクトともいうべき事業に取り組みながら通常業務でも成果をあげている状況にあることやゲノム医療など新たな事業についてはソフト面での予算や人材の強化の必要性をご理解いただきたいことを申し上げた。

8. 広報実績

資料に沿って報告された。

9. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

10. 6月分決算等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・今回の診療報酬改定の影響については、分析のうえ報告したい。

11. その他

- ・臨床研究法における特定臨床研究について、国の見解を踏まえ、対応を考えていく必要がある。
- ・人材確保について、今後、多数のデータサイエンティスト等が必要になるのではないか。
- ・収益性の期待できない場合。人材確保をどうするか、新しく必要となる人材の育成を

どうするかが課題。

- データサイエンティストなど新しく必要になってくる人材は、現在、数も少なく、教育の場も少ないが、C-CATはその教育の場になり得る。
- 個人情報の利活用策については、GDPR（EU一般データ保護規則）における規制の動向も踏まえつつ、萎縮することなく、積極的な対応を考えていくべきであり、そのための情報システムや人材確保をどうするか考えていく必要がある。
- C-CATのデータ利活用については国際戦略としても必要になってくるので、ビジョンを持つことが大事。